



千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.8.30 No. 3455

9.1 PKO 小選挙区制 反対集会に結集しよう

千葉県労組交流センター 反戦講座を開催

七月二十七日、船橋市東部公民館において、千葉労組交流センター主催による反戦講座「今、戦争を語るパート1」が、約四十名の交流センター会員をはじめ、労働者・学生・市民が参加して開催された。

千葉労組交流センターは、この間の運営委員会で、活動の柱のひとつとして、反戦講座を開催していくことを決定し、今回の講座はその第一回目として、八千代市在住の東京大空襲被災者の方を呼んで、体験談を聞くことから始めた。講座では、はじめに主催者により、PKO協力法案・小選挙区制導入が狙われている臨時国会が開



戦争を語るパート1
東京大空襲被災者 白土氏

催されている中で、九・一集会に全力で結集し、PKO・小選挙区反対の反戦闘争にたちあがるという訴えがなされた。

その後、講演にうつり、一九四五年三月十日未明、敗戦の五ヶ月前に、東京の両国・本所など下町一帯が焼く弾によって焼きつくされた東京大空襲の体験談を一時間にわたってうかがった。東京大空襲によって、下町一帯は完全に焼け野原となり、数十万の人々が焼死したといわれている。

こうした「戦争中の体験を話すのは、イヤなことであり、今まで誰れにも話さなかった」「だが、戦争はさげねばならないし、話すことで戦争反対につながるなら」ということではじまった話に、参加者はあらためて戦争のもつ恐ろしさを実感した。

そして、「こうしたことは二度とゴメンだ、力強く反戦をして下さい」という訴えに、あらためて反戦闘争のたいせつさを感じた。その後、参加した八千代市議の笹間テツさんをはじめ参加者が、体験談や感想を述べあいながら、この日の反戦講座を終了した。

カンボジア出兵、改憲・徴兵への道
PKO派兵
小選挙区制
法案
つぶせ
(集合・千葉駅7番線10じ35分発)

現体制を直撃する バブルの崩壊

9.8 全国労働者集会の 大成功を!

上

見通しすらたたない株式市場

七月三日、運輸省は、JR本州三社の今年度の株式市場を最終的に断念した。

その理由として、大蔵省・運輸省・財界などは、「株式市場の低迷」をあげており、その見通しについても、住田(JR東日本社長)が言う通り、「来年になつたら市場が回復する保障もない」というものである。

ところで、「株式相場の不透明感」と言っているが、その根拠として、①NTT株市場とその一時的高騰をあてこんで、「NTTのように高値で売り出して、各機関や個人の投資家から資金を吸い上げる」

「出発点」に引きもどされたことになる。これは、実に重大な政治問題である。分割民営化に手を染めてきた総てに、この責任をはっきりせなければならぬ。

しかも、JR東日本当局は、この危機打開を、「第二の分割民営化」とも言われる「五万人体制合理化」に求めようとしているのである。どうしてこんな暴挙が許せようか。

残された二七・一兆円の累積債務(赤字)

「矛盾の爆発はこれから」

バブルの崩壊―株式市場の不況―JRの株式市場の破綻で直ちに爆発するのは、旧国鉄債務問題である。

長期債務は、その後も利子が加算し増え続け、今では、二七・一兆円に膨れあがっている。そこにきて、新幹線の買い上げが加重されるというのである。「十年後に五兆円企業」(JR東日本)などという幻想は見るも無残に吹きとんでしまったのだ。

国鉄分割民営化は、十万人をう

わまる首切りと、二百名余の仲間を自殺に追いやっておきながら結局、何も「解決」されないまま

われわれは、この「新たな段階」を見すえ、それを打ち破る反体制を構築しなければならぬ。九・八集会は、そのための決定的集會である。(次号につづく)